

## ココが知りたい! 原子力のクエスチョン

Q 静岡県原子力発電所環境安全協議会はどんな組織なの?



A 県、4市(※)及び中部電力が締結した「浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定書」に基づき設置された組織です。

静岡県原子力発電所環境安全協議会(以下「協議会」という。)では、浜岡原子力発電所について、周辺環境の安全を確認し、その周知を行っています。(※御前崎市、牧之原市、掛川市及び菊川市)

### ①周辺環境の安全の確認について

発電所の周辺で測定された環境放射線及び放射能の値を、有識者等から構成される静岡県環境放射能測定技術会が評価、分析します。協議会は、その結果について報告を受け、発電所の周辺環境が安全であることを確認します。

### ②周辺環境の安全の周知について

①で確認した周辺環境の安全について、静岡原子力だよりを発行し、皆様に御覧いただくことで、周知を行っています。

①及び②は、四半期ごとに実施しています。

【表1】協議会の構成委員

|    |     |                                                    |
|----|-----|----------------------------------------------------|
| 委員 | 県   | 知事、副知事、関係部長、県議会議長、関係県議会議員                          |
|    | 4市  | 市長、市議会議長                                           |
|    | その他 | 関係農協組合長、関係漁業組合長、関係医師会長、関係看護協会支部長、地方気象台長、中部電力(株)副社長 |

## 浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(令和4年4月~6月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、令和4年10月21日現在、3号機、4号機及び5号機については定期事業者検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

### 静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局 静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail [antai@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:antai@pref.shizuoka.lg.jp)

ホームページアドレス: <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

### 静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス: <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

令和4年12月発行 企画・編集・発行/静岡県原子力発電所環境安全協議会

ISSN 0912-1838

静岡県原子力発電所環境安全協議会

Shizuoka

# 原子力だより No. 194



令和4年7月に、静岡市内にて、静岡県原子力発電所環境安全協議会の本会議を開催しました。一堂に会した対面による開催は3年ぶりです。静岡県環境放射能測定技術会でとりまとめた令和3年4月から令和4年3月までの調査結果を確認しました。

## 令和4年4月~6月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るために行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

令和4年4月から6月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力 福島第一原子力発電所の事故等による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

(詳細は次ページ)

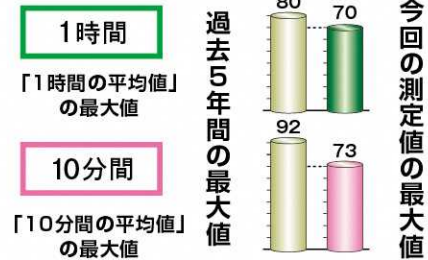
# 令和4年4月～6月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

## 空間の放射線の測定（1時間平均値および10分間平均値の最大値）

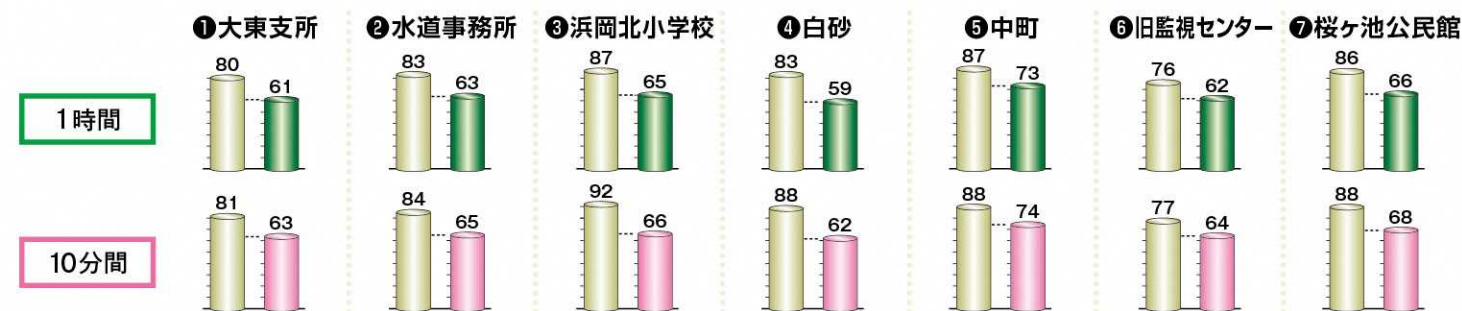
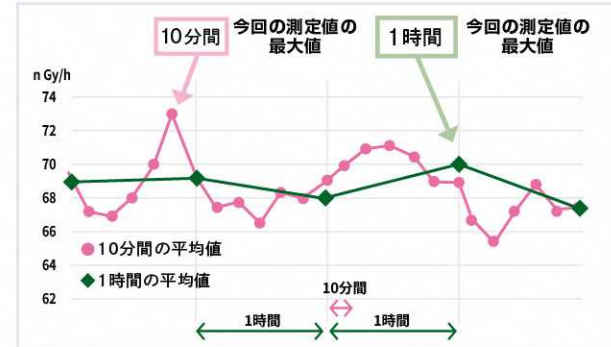
モニタリングステーション（14か所）において、常時、空間放射線の量を測定しています。令和4年4月から6月の間の測定結果で過去5年の最大値を超えた地点はありませんでした。測定された値は、東電事故等の影響は認められず、自然放射線由来のものです。

### グラフの見方

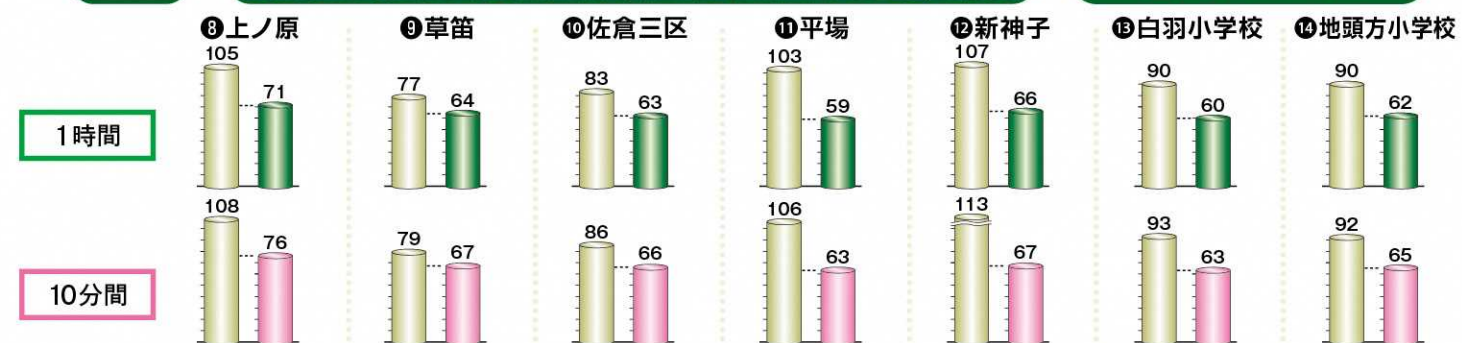
単位:ナノグレイ/時



### グラフの値について



### モニタリングステーションの配置図



測定結果から、自然放射線による外部被ばく線量は、年約0.29mSvと推定されます。（日本平均約0.33mSv、世界平均約0.48mSv※）

※新版 生活環境放射線（国民線量の算定）平成23年12月（原子力安全研究協会）から引用

## 農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。令和4年4月から6月の間に測定した試料の一部※は、過去（震災前）5年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準\*等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力 福島第一原子力発電所の影響によるものと推定しました。

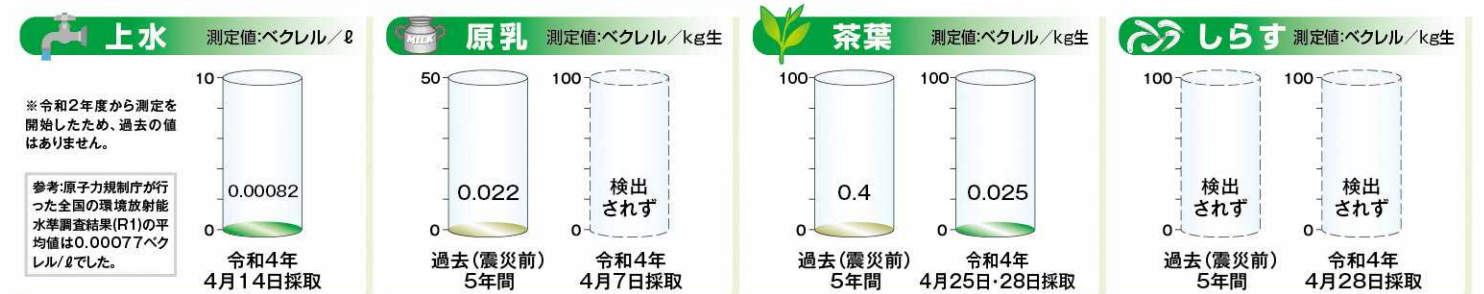
※測定した10試料32検体のうち、2試料3検体（浮遊塵1検体、茶葉2検体）

\*食品衛生法に基づく基準値(参考欄参照)

### 代表的な試料の放射性セシウムの測定値の最大値



### 代表的な試料の放射性ストロンチウムの測定値の最大値



### 放射能調査に用いる単位

■グレイ(Gy)……放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位  
 ■シーベルト(Sv)……吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位  
 ■ベクレル(Bq)……放射能の強さを表す単位

《参考》ミリ(m)……1/1,000 千分の1  
 マイクロ(μ)……1/1,000,000 百万分の1  
 ナノ(n)……1/1,000,000,000 10億分の1